

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

1 9 7 8

環 境 庁 自 然 保 護 局

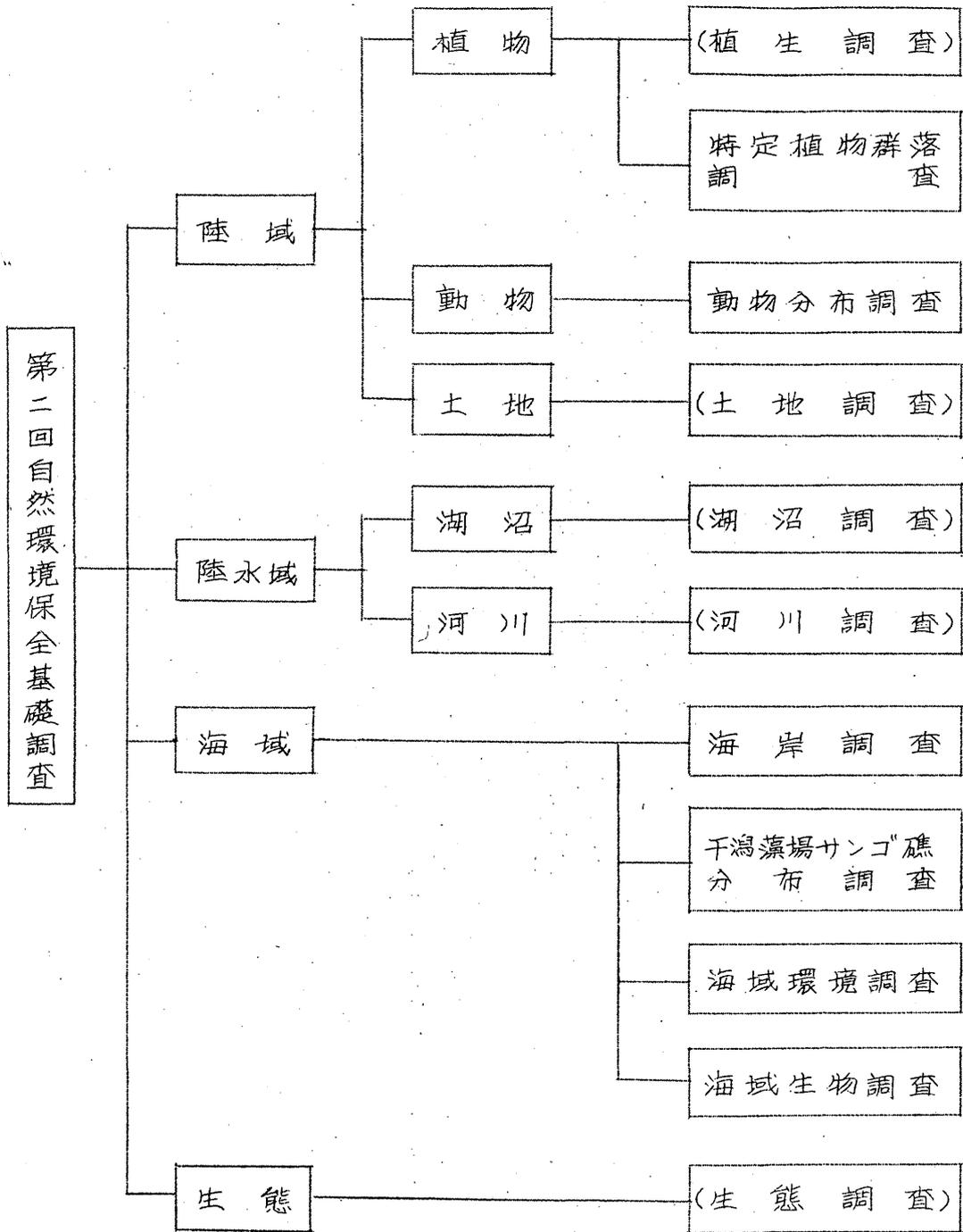
第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

(1 9 7 8)

目 次

	頁
第 1 特定植物群落調査	1 - 1
第 2 動物分布調査 (哺乳類)	2 - 1
第 3 動物分布調査 (鳥 類)	3 - 1
第 4 動物分布調査 (両生類・は虫類)	4 - 1
第 5 動物分布調査 (淡水魚類)	5 - 1
第 6 動物分布調査 (昆虫類)	6 - 1
第 7 海 岸 調 査	7 - 1
第 8 干潟・藻場・サンゴ礁分布調査	8 - 1
第 9 海域環境調査	9 - 1
第 10 海域生物調査	10 - 1

第2回自然環境保全基礎調査骨子



()内は54年度実施予定

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 1 特定植物群落調査

1 9 7 8

環境庁自然保護局

第1 特定植物群落調査

目 次

	頁
特定植物群落調査要綱	2
別紙 1 調査対象植物群落選定要領.....	5
別紙 2 特定植物群落生育地図.....	7
別紙 3 特定植物群落調査票.....	10
別紙 4 報告書作成要領.....	22
別紙 5 特定植物群落生育地図帳作成要領.....	32

表 目 次

表 1 特定植物群落選定基準.....	5
表 2 植生調査表.....	16

特定植物群落調査要綱

1 調査の目的

わが国における植物群落のうちで学術上重要なもの、保護を必要とするものなどの生育地及び生育状況、について調査する。

2 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5 調査内容

(1) 調査の対象とする植物群落は、別紙 1「調査対象植物群落選定要領」により選定する。

(2) 調査事項は次のとおりとする。

ア 植物群落の位置、面積

イ 植物群落の概要

ウ 保存の状況

エ 保護の現状

オ 保護管理に関する所見

6 調査方法

昭和 48 年度に実施した第 1 回自然環境保全基礎調査による植生図、すぐれた自然図及び空中写真等を参考にしながら、既存資料その他知見の収集を行い、必要に応じて現地調査を行う等して調査を実施する。

7 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を下記の図票にとりまとめる。

(1) 特定植物群落生育地図

特定植物群落の生育地は、別紙 2 「特定植物群落生育地図」(以下「生育地図」という。)にならい国土地理院発行の 1/5 万地形図に表示する。

(2) 特定植物群落調査票

調査した事項は、別紙 3 「特定植物群落調査票」(以下「調査票」という。)にとりまとめるものとし、調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表(表 2 の様式による)を添付する。

8 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、報告書 150 部、報告書付属資料 1 部及び生育地図帳 1 部を、それぞれ別紙 4「報告書作成要領」、別紙 5「特定植物群落生育地図帳作成要領」により作成し、昭和 54 年 3 月 31 日までに、環境庁自然保護局長あて提出する。

< 別紙 1 >

調査対象植物群落選定要領

- 1 調査対象とする植物群落は、群落の面積の大小にかかわらず表1「特定植物群落選定基準」に該当するものとする。
- 2 第1回自然環境保全基礎調査（環境庁）及びIBPのJCT(P)ハンドブック(2)等を参考にしつつ、自然公園、自然環境保全地域等及びこれらの候補地に含まれるものを落とすことのないように注意し、都道府県ごとに植物群落を選定する。

< 表 1 > 特定植物群落選定基準

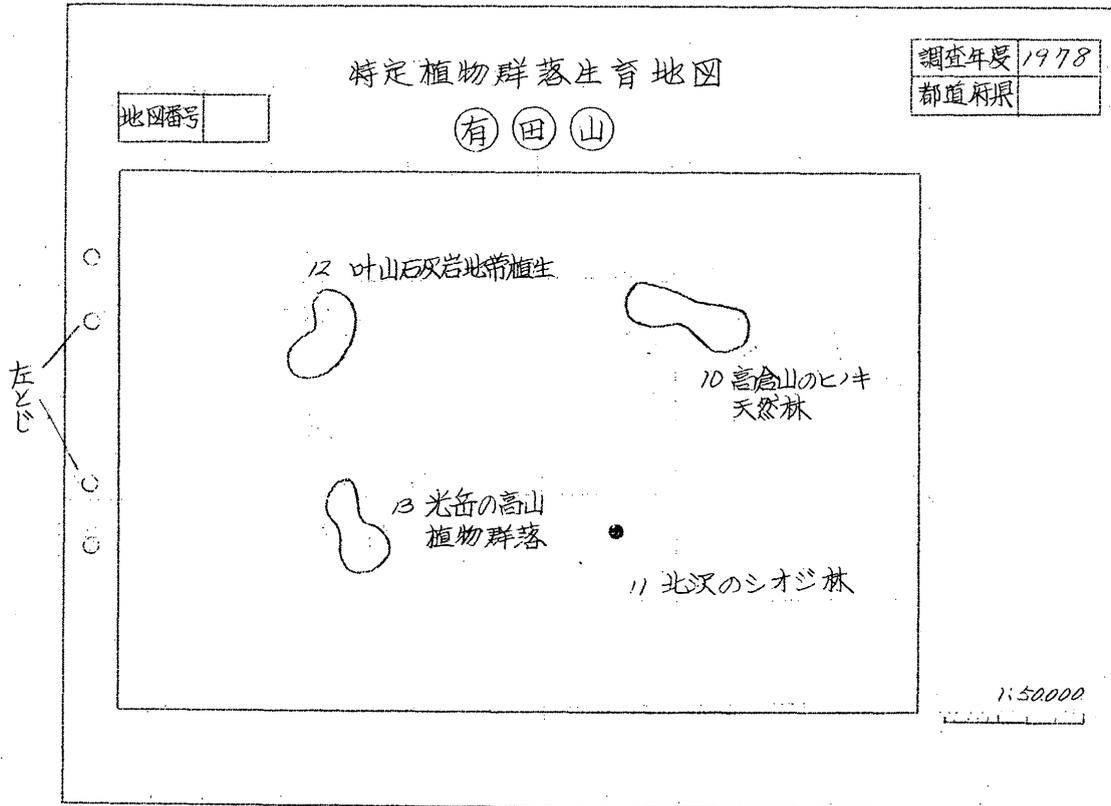
- A 原生林もしくはそれに近い自然林
(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
- B 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落
または個体群

- C 比較的普通に見られるものであつても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの（特に湿原についてはもれのないように注意すること。）
- E 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、社寺林等）
- F 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G 乱獲その他人為の影響によつて、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H その他、学術上重要な植物群落または個体群

<別紙 2 >

特定植物群落生育地図

生育地図例

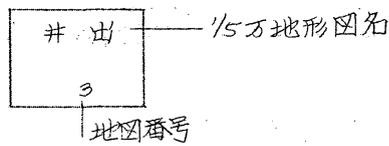
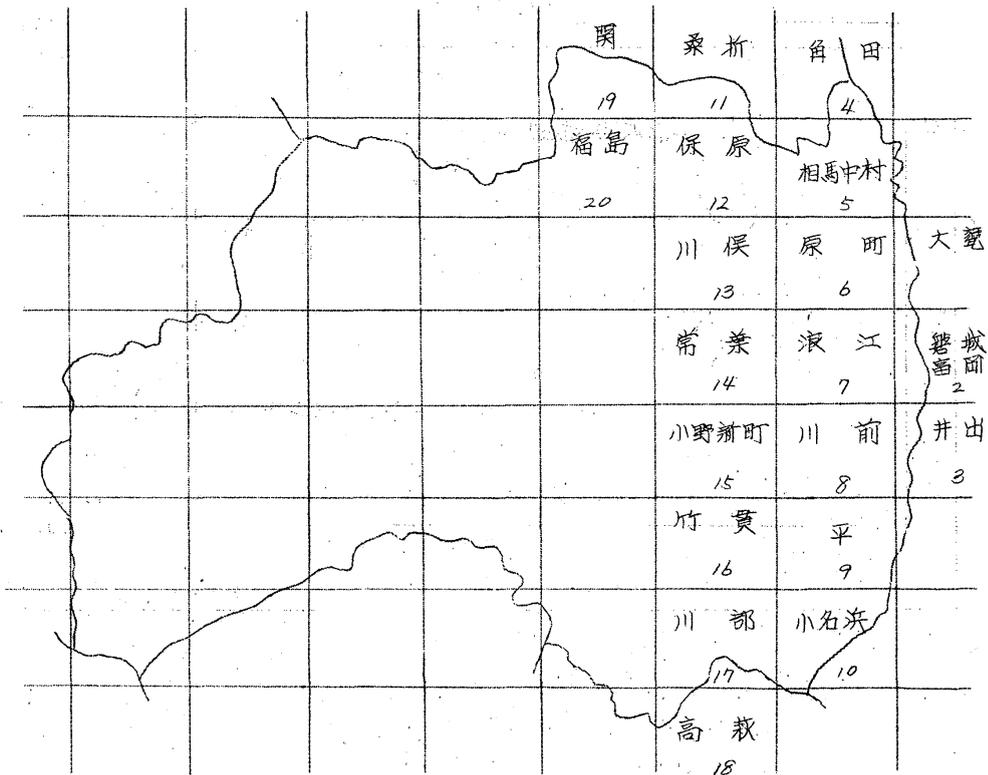


(生育地図作成上の注意)

- 1 生育地図には、必ず国土地理院発行の1/5万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。

2 1/5万地形図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(下図(以下「地図番号図」という)参照)

地図番号図 (例福島県)



- 3 調査の結果、植物群落の生育地が表示されていない地形図が出てきた場合も、当該都道府県にかかわりのある地形図はすべて提出することとし、4 .の作業はすべての地形図について行う。
- 4 生育地図例のように、地形図の余白の所定の位置に「タイトル」、「地図番号」、「調査年度」(西暦)、「都道府県名」を黒インクで記入する。
- 5 対象群落の生育地を黒線でくくり、その位置を示すとともに、調査票と対照できるように対照番号と件名を記入する。くくり線は、巾0.5mm程度の黒線で引くものとし、生育地が小さくて黒線でくくれない場合は、小黑丸(・)で表示する。
- 6 対照番号は、各都道府県ごとに通し番号とし、地図番号の若い生育地図から順次生育地ごとに付す。
- 7 生育地が2枚以上の地形図にわたる場合は、対照番号と件名は同一のものとし、それらに関係するすべての地形図に記入する。

< 別紙 3 >

特定植物群落調査票

(調査票様式)

取 扱		特定植物群落調査票				調査年度 1978		
						都道府県		
対照番号	地籍号	1/5万地形図	件 名		選定基準			
位 置			所在市町村		標 高	面積 (ha)		
			市 郡	町 村				
内 容							資料の 種 類	現地調査・文献
							文	
保護の現状							文 献	
保護技術的 管理に 関す 見								
調査者	所 属					氏 名		

(調査票記入上の注意)

- 1 調査票の様式は、前頁に掲げるものとし、用紙は110kg 程度、B5 版、左側 2 つ穴あきとする。
- 2 1 件 (1 生育地) につき調査票は 1 枚とする。
- 3 調査票には、原則として代表的な地点における植生調査表を表 2 の様式に従って 1 カ所以上添付する。
生育地が 2 以上の植物群落から構成されている場合は、植物群落ごとに植生調査表を添付する。ただし、草本植生の場合は、代表的な植物群落についての植生調査表を添付すればよい。
当該生育地における植生調査表が過去 5 年以内のものであれば、それを添付してさしつかえない。
- 4 「調査年度」(西暦)、「都道府県」には、それぞれ該当のものを記入する。
- 5 「取扱」には、公表することにより乱獲のおそれがある等、その植物群落の生育地の公表が不都合な場合、赤字で秘と記入する。
- 6 「対照番号」「地図番号」・「1/5 万地形図」には、生育地図と対照できるようにそれぞれ該当するものを記入する。

- 7 「件名」には、その植物群落の具体的名称を、例えば「朝日岳の蛇紋岩地帯植生」、「高倉山のヒノキ天然林」などになるべく、所在地名と組み合わせわかりやすいものとして記入する。
- 8 「選定基準」には、その植物群落が対象として選定された理由を、表1「特定植物群落選定基準」から選んで記入する。2つ以上の理由がある場合も、そのすべてを記入する。
- 9 「位置」には、例えば、「朝日岳頂上付近」「高倉山北斜面のブナ林地帯の中」などのようにその生育地を「件名」に記入した地名より詳しく記入する。
- 10 「所在市町村」には、その生育地が属する市郡、町村を記入する。生育地が2以上の市町村にわたる場合は、主たる生育地の属する市町村名を記入する。
- 11 「標高」には、「生育地のおおよその標高を10m単位で記入し、幅がある場合は適宜「700～950m」のように記入する。
- 12 「面積」には、生育地のおおよその面積を記入する。
- 13 「内容」には、生育地の位置の詳細、その植物群落の概要（主な構成要素、群落高、上層の植被率等）

その植物群落の分布の特徴、保存の状況等を具体的に記入する。人工林の場合はおよその樹令を必ず記入する。

また、1団地が2以上の群落から構成されている生育地の場合は、植物群落ごとにその植物群落の概要を記入する。ただし、草本植生の場合は、代表的な植物群落についてのみその概要を記入すればよい。

なお、調査票の「内容」欄に記入しきれない場合は、（裏面につづく）として調査票裏面に記入する。

（例1） 檜原のシオジ林

出原郡寺田村山本の通称檜原と呼ばれる新津川支流北沢の標高800m付近に、シオジの原生林が生育する。シオジの純林に近く、一部カツラが混生し、亜高木層には、チドリノキ、オオバアサガラ等、林床にはタマアジサイ、キツリフネ、レンゲショウマ、シノブカグマ等が生育する。

上層の植被率は90%ほどで、群落高は約25mである。シオジの純林は、本県でもここだけ

であり、全国的にも珍しく、石灰岩地帯の指標
となっている。

また、周辺のブナ林とともに非常によく自然
の状態が保存されている。

(例2) 船形山原生林

当地域は、宮城県西端を南北に走る奥羽山脈
の中央部に位置している船形山(標高1,500m)
を中心とする地域で、積雪の極めて多い地域で
ある。

1350m以上の亜高山地帯には、アオモリ
トドマツ、などの針葉樹帯が発達せず、ミヤマナ
ラやミネカエデなどからなる落葉低木林が存在
している。また、これより下にはブナ林が発達
しており、特にこの地域の北部では美事な林が
残存している。しかし、この場所も近年急速に
伐採が進められている。

1 ミヤマナラ低木林

主な構成要素、群落高、 - - - - -

2 ブナ林

主な構成要素、群落高、上層の植被率、

- - - - -

3 林

- - - - -

- 14 「保護の現状」には、自然公園及び自然環境保全地域等の指定、天然記念物の指定等、当該植物ないし植物群落または、当該生育地に関して現在とられている保護対策について記入する。
- 15 「保護管理に関する技術的所見」には、当該植物ないし植物群落または当該生育地の保護管理について技術的所見があれば記入する。
- 16 「資料の種類」には、当該調査票が現地調査によって作成されたものか、文献によつたものかの区別を該当するものを で囲んで示す。
- 17 「文献」には、当該調査票が文献によつて作成されたものの場合、文献番号、(別紙4「報告書作成要領」に後述)、筆者名、発行年(西暦)を記入する。
- 18 「調査者」には、当該調査票作成者の所属、氏名を記入する。

<表 2>

植 生 調 査 表

(様式及び記入例)

植 生 調 査 表					
対照番号 12 件名 入丁杉のケヤキ林			四番 大村 ①		
調査地: 長崎県大村市黒木 入丁杉 (風当) 強 ③ 弱			(海拔) 590 m		
(地形) 山頂: 尾根: (斜面) 上・中 (凸凹) 谷: 平地 (日当) 陽 ④ 陰			(方位) N30°W		
(土壌) ポド性 褐赤・赤・黄・黄褐赤 アド・グライ (土湿) 乾 ⑤ 湿・過湿			(傾斜) 35°		
凝灰土・沼沢・沖積・高湿草・非固岩層 (固岩層)・氷面下			(面積) 10 X 15 m ²		
(階層)	(優占種)	(高さm)	(植被率%)	(胸径cm)	(種数) (備考)
I 高木層		14 ~	70	40 ~ 60 cm	
II 亜高木層		8 ~	30	10 ~ 20 cm	
III 低木層		2 ~	10		
IV 草本層		0.7 ~	10		
V コケ層					

調査
氷水なし

地表に 礫多し

(群落名) 1978年8月10日 調査者

S	D.S.V	SPP.	S	D.S.V	SPP	S	D.S.V	SPP
1	I 2.3	ケヤキ	III	+ 2	ヤブニツケイ	IV	+ fl	モミジガサ
2	1.2	ホソバタバ	1.2		シキミ	+		ジコウモンジンガ
3	3.3	ミズキ	+ fl		ウリノキ	+		シラキ K2
4			+		ガクウツギ	+ 2		ヤブムラサキ
5			+ fl		ハナイカタ	+		イヌガヤ
6			+ 2		ヤマアジサイ	+		カヤ
7			+		ミズキ	1.1 fl		オオキネノカミソリ
8						+		タイモンジソウ
9						+		シケチシタ
10						+ 2		クサアジサイ
11	II 2.2	ヤブニツケイ				+		イノテモドキ
12	+	イヌガヤ				+		ナツズタ
13	+	ヤブツバキ				+		ケヤキ K2
14	1.1	イタヤカエデ				(+)		キバナアキギリ
15	1.2	シキミ						
16	+	カヤ						
17	1.1	イヌガシ						
18	+	エロノキ						
19	+	ホソバタバ						
20								
21								
22								
23								
24								
25								
26								
27								
28								
29								
30								

ケヤキ ホソバタバ ツバキ シキミ ウリノキ カヤ イヌガシ

(記入上の注意)

- 1 对照番号、件名：特定植物群落調査票と对照できるように該当のものを記入する。
- 2 調査地：府県、市、町村名は必ず記入し、加えて字、河川、沢、山地名などの記入は5万分の1地形図上の名称をなるべく採用する。
- 3 図幅：5万分の1地形図名を記入する。なお調査地の位置を明らかにするために地形図を右のように4等分して該当する上下左右の箇所を で囲む。

上左	上右
下左	下右
- 4 海拔：近くの三角点、水準点、独標点などで更正した携帯用高度計で測定する。やむをえない場合は5万分の1地形図上で推定する。10mのケタまで記入する。
- 5 方位：調査区が面している方向をクリノメータで測定し、N22°Wのように記入し、NNWという表現はできるだけさける。
- 6 傾斜：調査区斜面のほぼ平均とみられるところをクリノメータで測定する。
- 7 面積：縦×横 m で表現する。調査区的面積は少な

くとも最小面積の2倍以上の面積をとることがのぞましい。

- 8 出現種数：各層の種数の和から2つ以上の階層に出現する種類の重複分を差引いたものを記入する。
- 9 地形：調査区の位置する地形区分を で囲む。斜面上にある場合は斜面主方向にそって上中下区分と凸凹別で表現する（凸凹のない場合は凸凹チェックなしとする）。傾斜5°以下である程度広がりをもつ場合は平地とするが、谷底平地とは区別すること。
谷底平地は谷と平地をダブルチェックして現わす。
- 10 土壌：該当する土壌型名を で囲む。調査表内の略称はつぎの土壌型を現わしている。ポド性 ポドゾール性土、褐森 褐色森林土、赤 赤色土、黄 黄色土、黄褐森 黄褐色森林土、アンド 火山灰土壌（黒色土壌）、グライ グライ上、凝グライ 擬グライ土、沼沢 沼沢土、沖積 沖積土、高湿草 高山湿草地土、非固岩屑 非固結岩屑土、固岩屑 固結岩屑土、水面下 水面下土壌。
- 11 風当・日当：調査区をとりまく地形的特徴に注意

し、遮蔽物の有無や樹形の変化などにも留意してチェックする（ で囲む）。

- 12 土湿：乾とは土塊をにぎって湿りを感じない場合。
適とは湿りを感じ、湿とは水が出るがたれない、過湿とは水がしたたる場合、としてチェックする。
- 13 階層：独立または比較的独立した植物層（乗群層）を一つの階層とし、自然の階層を映し出すように把握する。森林の場合階層は基本的には 高木層、 亜高木層、 低木層、 草本層、 コケ層の5層に分かつ。低木層及び草本層が更に細分可能の場合は各々に第1第2または - 1、 - 2、 - 1、 - 2を区分して記入する。そのため、 には余白を設けてある。草本の場合には草本層は上層と下層に分けられる。その他の区分を必要とする場合には適宜工夫する。低木林の調査では高木層と亜高木層の欄は空白となる。
- 14 優占種：各階層の優占種の植物名を記入する。同一の階層に優占種が複数のときは少なくとも二種類を記入する。
- 15 高さ：各階層の乗群層の上限と下限の高さを記入する。例えば8～15mのように上限は～の右側に

書く。コケ層は上限だけで足りる。

- 16 植被率：各階層毎の植被率（種類別の被度ではなくその階層全体としての植物被覆の割合）を百分率で判定して記入する。
- 17 胸径：胸高直径は高木層および亜高木層に限り、各層の最大胸高直径のもののみを測定して記入する。個々の樹木は毎木調査（調査表裏面）で測定する。
- 18 種数：組成表から数えだして各階層ごとに記入する。したがって各層で同じ種類（例えば高木性の種など）が重複して数えられることもある。
- 19 群落名：高木層の優占種と低木層（または草本層）の優占種とをハイフンでつないであらわすのが望ましい。例えばブナ チシマザサ群落、またはブナ チシマザサ ミヤマカンスゲ群落などとなる（略してもよい）
- 20 調査者：直接調査を行なった人をもれなく記入することがのぞましい。責任者には 印をつけておくこと。
- 21 組成表について：調査区内の種類組成、階層、優占度または被度、群度、活力度および芽生えについて

記入する。表中の S 欄は階層、D・S 欄は優占度または被度と群度、 欄は活力度、SDP. 欄は種名をそれぞれ記入する。記入の要領はつぎの通りである。

(S) 階層： 、 、 - 1、 - 2、 、 のようにし、種類のリストは（高木層）からはじめて順次下層にいたる。

(D・S) 優占度または被度と群度：種の優占の度合を判定するには下記の Braun - Blsquet 法による優占度 被度と数度（推定的個体数）の組み合わせによる測定法を用いる。

rごくまれに出現

+少数で被度は非常に低い

1多数だが被度は低い。あるいはかなり少数だが被度はやや高い

2非常に多数（ただし被度は 1/10 以下）あるいは被度が 1/10 ~ 1/4（ただし個体数は任意）

3被度が 1/4 ~ 1/2 で個体数は任意

4被度が 1/2 ~ 3/4 で個体数は任意

5被度が 3/4 以上で個体数は任意

また群度はつぎの記号で記入する。

1単生する

2群状または叢状に生育する

3斑状に生育する（小斑あるいはクッション）

4小さいコロニーをつくって生育するか、ある
いはまた大斑かじゅうたんを形成する

5大群をなす

この（D・S）欄の記載にあたっては優占度（または被度）を先にし群度をつぎに記す。例えば4・2のようになる。+・1の場合は単に+とのみする。高木層を占める種の群度については調査区外をも概観して評価する。例えば全山がブナでおおわれているがたまたま調査区内にブナが1本である場合は5・1とせず、5・5とする。

（ ）活力度と芽生え：群落内における種個体の生
活力により重点をおいた Ellenberg や Knopp の方
式にしたがいつぎの記号で記す（略してもよい）

.....極めて生育不良でほとんど果実や種子を生じ
ない

.....生育不良

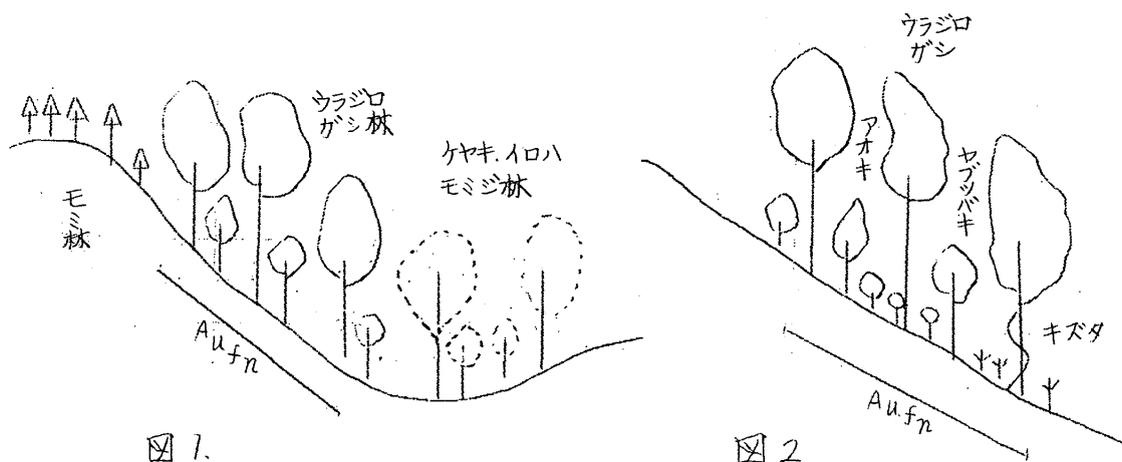
無印.....生育普通

なお、芽生えである場合にはこの欄にKの記号を記す。また開花している(fl)、果実や種子をつけている(fr)場合にも、それぞれの記号をこの欄に記しておく。

22 植生断面図：植生調査を実際に行なわれた植分と、その立地条件との関係を具体的に表現する手段として植生断面の図化は重要である。また地形に対応した群落構造とその配分を概観する手がかりとなる。

したがって、図化には地形に対応した群落配分図(図1)と、具体的な対象植分自体の群落断面(図2)の2通り画く(おもてに空白がない場合には裏面に画く。)

[例]



<別紙4>

報告書作成要領

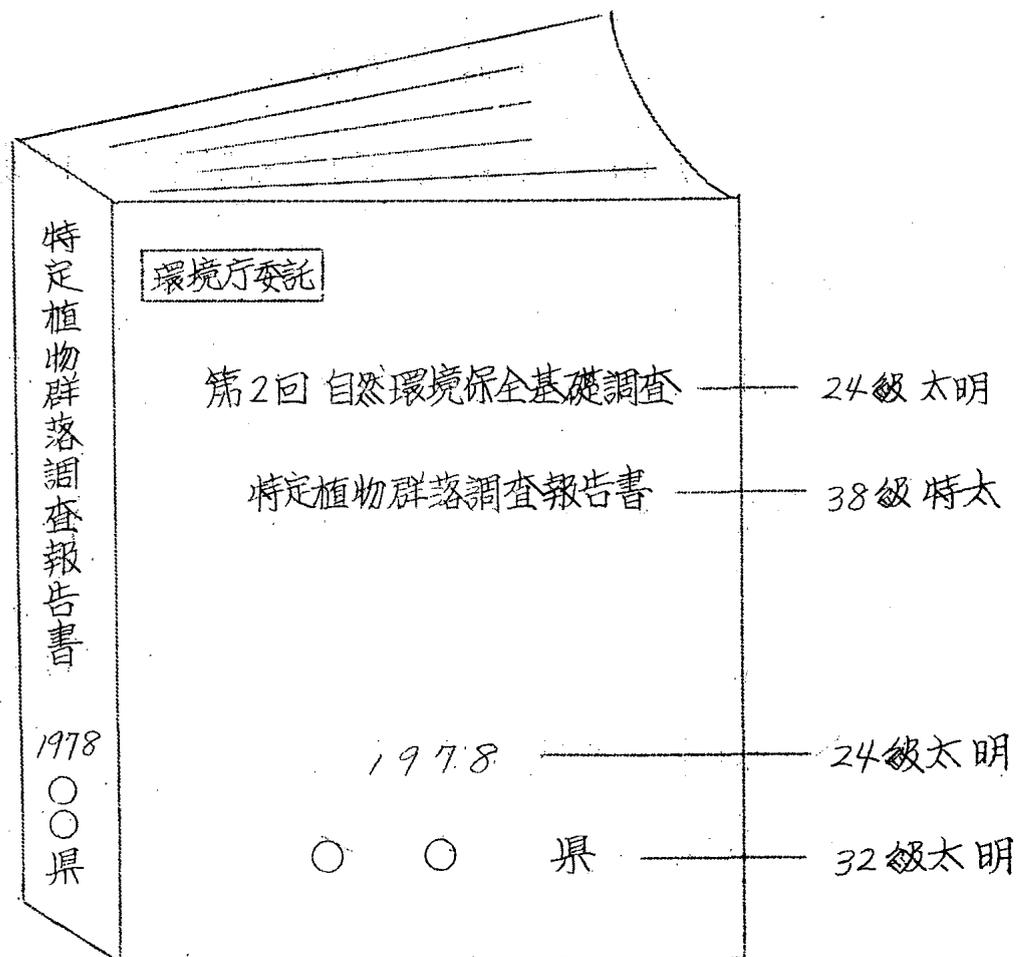
1 規 格

B5版、左とじ、横書きとする。

印刷は、タイプ印刷程度とする。

2 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）はオリーブ色、厚さは215kg（
レザック66Y程度）とし、様式は下図によるものとする。



3 配 列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする。

- (1) 目 次
- (2) 特定植物群落の概要
- (3) 調査結果の概要
- (4) 特定植物群落生育地概略図
- (5) 特定植物群落調査票の見方について
- (6) 特定植物群落調査票
- (7) 文献リスト
- (8) 調査担当者名簿

4 特定植物群落の概要

県内の特定植物群落についてその概要をとりまとめる。

5 調査結果の概要

調査結果を次の例にならい表にとりまとめる。

(例)

特定植物群落	○ ケ所
(内訳) 選定基準がAに該当するもの	○ ケ所
B	○ ケ所
C	○ ケ所
D	○ ケ所
E	○ ケ所
F	○ ケ所
G	○ ケ所
H	○ ケ所

6 特定植物群落生育地概略図

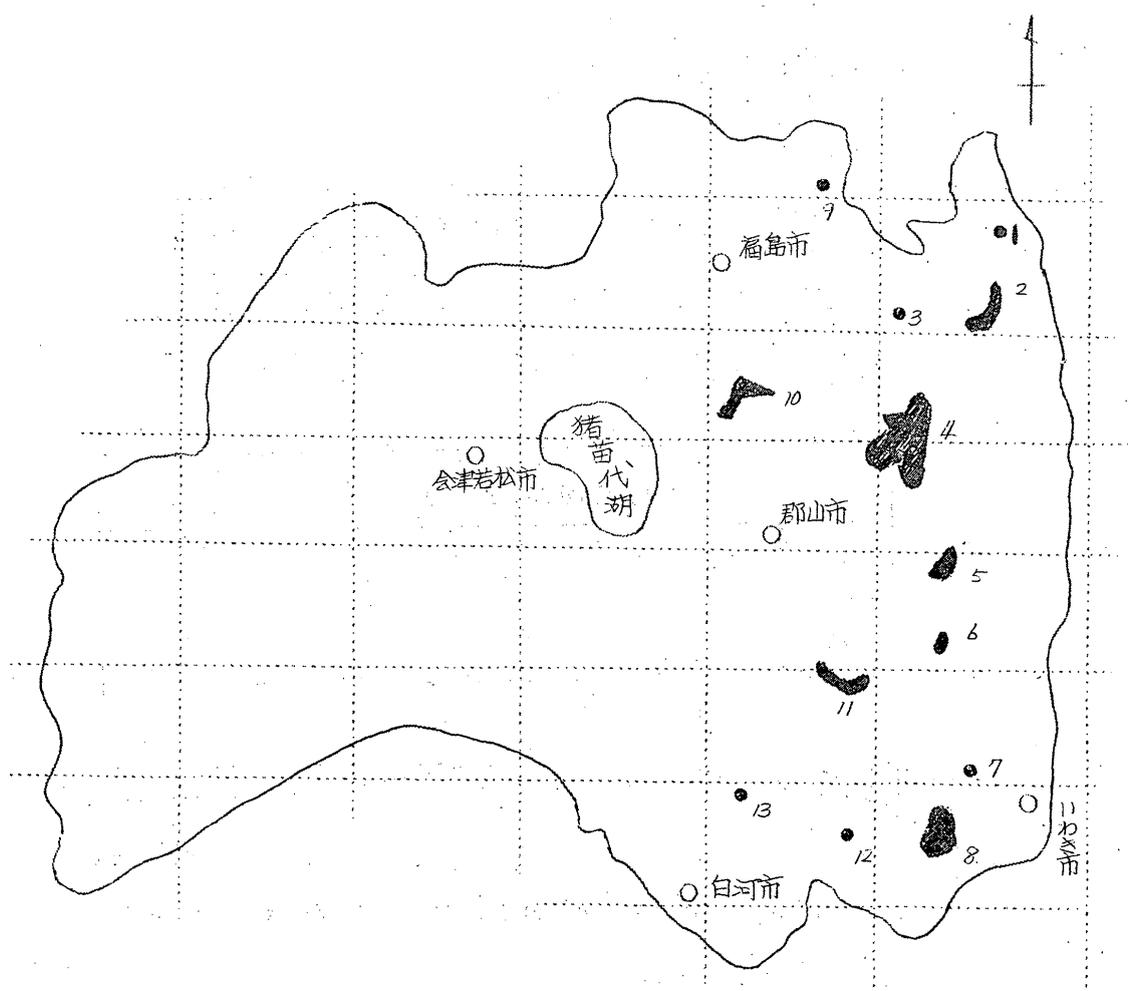
県内の特定植物群落の生育地を図示するため、概略図を作成する。

概略図は生育地図(1/5万)を参考にして、当該県の概略図(B5版もしくはB4版に収まる程度)に、次の例にならい生育地を記入し、対照番号を打つ。

この際調査票の「取扱」欄が秘のものは、その旨を

記して概略図からその生育地を省略する。

(例) 福島県特定植物群落生育地概略図



(注) 生育地のわきの数字は特定植物群落調査票との対照番号である。

7 特定植物群落調査票の見方について

調査票の見方について次の例のように解説する。

(例)

特定植物群落調査票の見方

- (1) 調査票は、1件(1生育地)につき1枚作成してある。
- (2) 調査対象となった植物群落は、次の選定基準により選ばれ、それぞれの調査票の「選定基準」欄にはその理由が記号で記載されている。

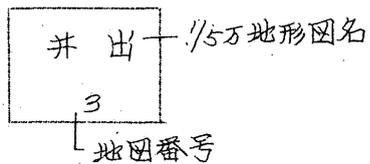
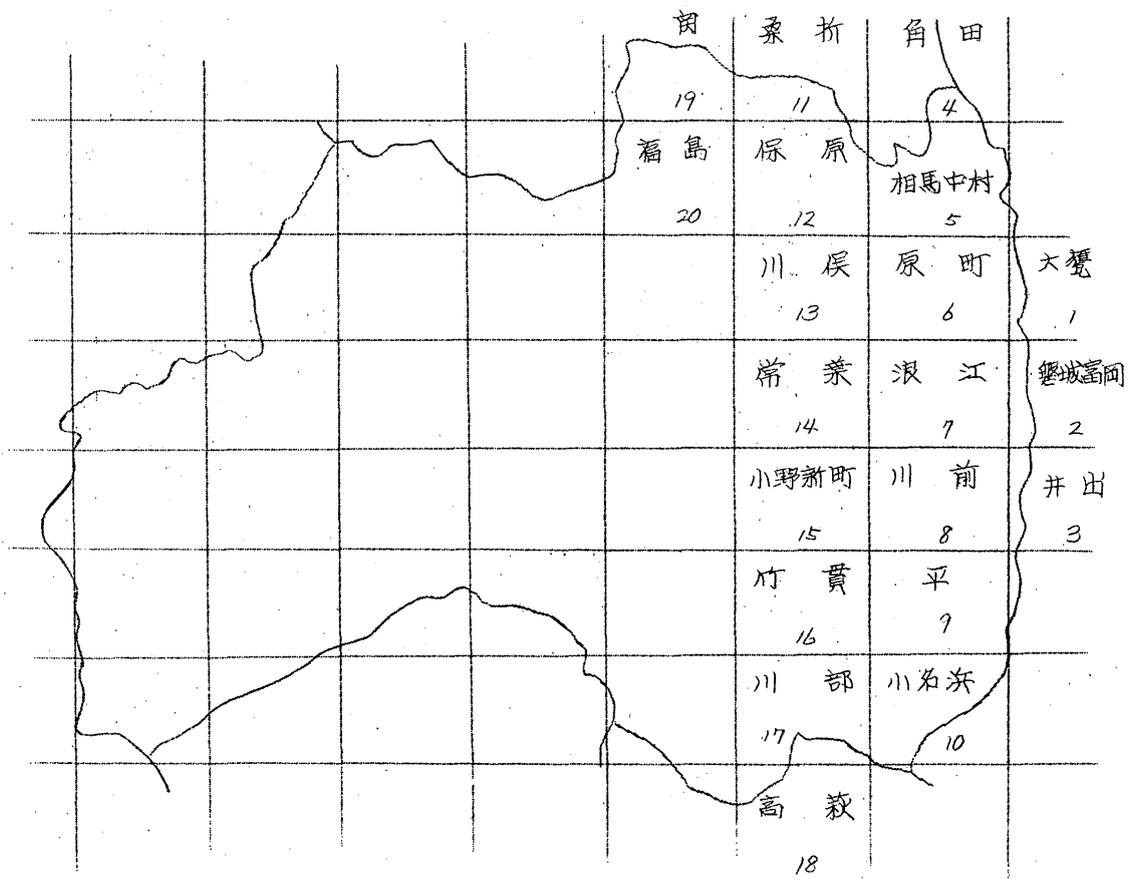
特定植物群落選定基準	
A	原生林もしくはそれに-----
B	国内若干地域に-----
C	比較的普通に-----

- (3) 「取扱」欄が秘のものは、公表することにより乱獲のおそれがある等のため、生育場所に関する事項は記載されていない。
- (4) 「対照番号」は、県内の特定植物群落の生育地ごとに付けられた通し番号で、特定植物群落

生育地概略図と対照できるようになっている。

(5) 「地図番号」は、1/5万地形図ごとに付された番号である。(下の「地図番号図」参照)

福島県地図番号図



8 特定植物群落調査票

特定植物群落調査票及び当該群落に係る植生調査表をそれぞれ1頁に1枚の割で掲載する。掲載の順は対照番号の順とする。

この際、調査票の「取扱」欄が秘の場合は、印刷される調査票から生育地に関する事項を省略すること。

9 文献リスト

当調査で使用した文献について、次の表にならいつりまとめる。なお、文献には、通し番号(文献番号という。)をつける。

文献番号	筆 者 名	発 行 年 (西 暦)	文 献 名
1			
2			
3			

10 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属、氏名、分担分野を次の表にならいつりまとめる。

番号	氏 名	所 属	分 担 分 野
1	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	総括責任者
2	× × × ×	× × × ×	× × ×

11 奥付け

奥付けの様式は下図によるものとする。

<p>第2回 自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書</p> <p>昭和54年3月31日</p> <p>編集</p> <p>〇 〇 県</p>
--

環境庁委託調査

12 報告書付属資料

調査票の「取扱欄」が秘となっている調査票がある場合は、その写しを報告書の付属資料として1部添付すること。

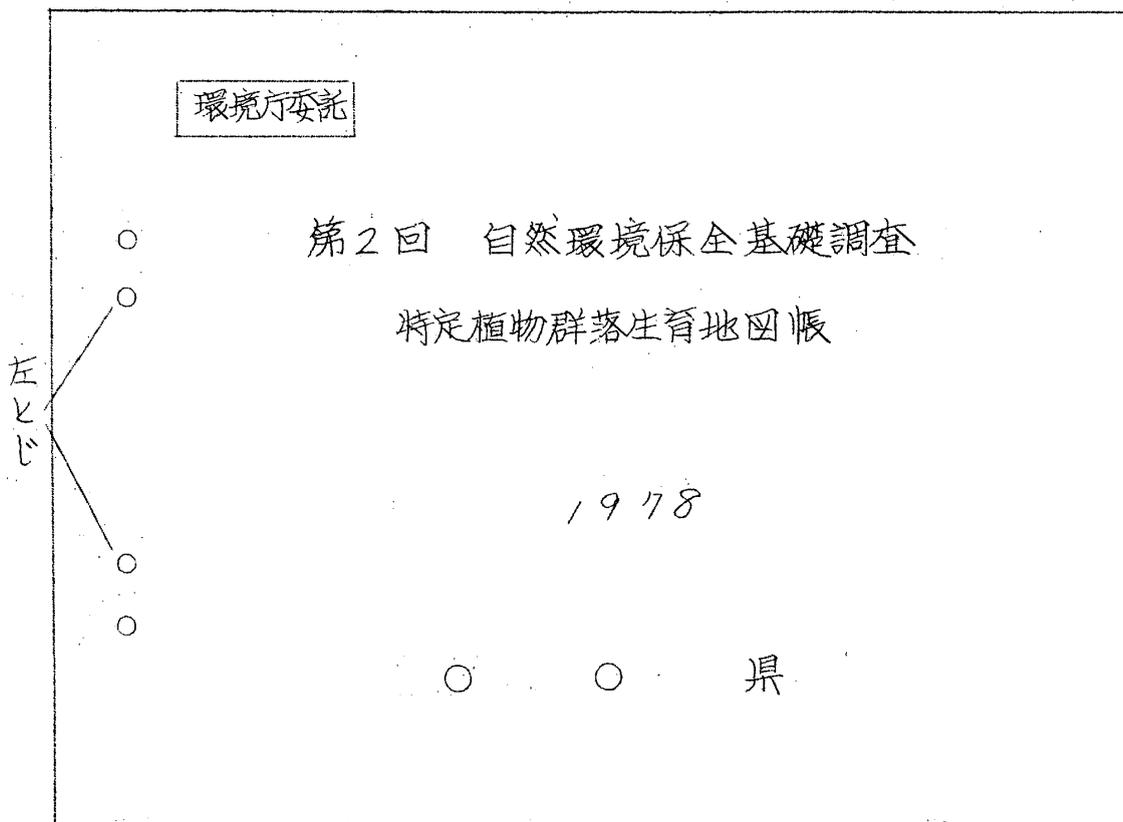
<別紙 5 >

特定植物群落生育地図帳作成要領

1 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/5万地形図の大きさとし、
表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は下図によるものとする。

裏表紙は厚手のボール紙を使用する。



2 配 列

配列は以下の順とする。

- (1) 表 紙
- (2) 地図番号図
- (3) 特定植物群落生育地図 (地図番号の順とする。)
- (4) 裏 表 紙

なお、調査の結果、何の分布も表示されない地形図が出て来た場合でも当該都道府県に関するすべての地形図をつづるものとする。

第 2 回自然環境保全基礎調査要綱

第 2 動物分布調査（哺乳類）

1 9 7 8

環境庁自然保護局

第2 動物分布調査（哺乳類）

目 次

動物分布調査（哺乳類）要綱	3
別紙1 聞きとり調査実施要領	6
別紙2 哺乳類分布図	19
別紙3 哺乳類分布メッシュ図	24
別紙4 哺乳類出現（絶滅）年代図	27
別紙5 報告書作成要領	29
別紙6 聞きとり調査票綴作成要領	33
別紙7 哺乳類分布図帳作成要領	35

表 目 次

表1 聞きとり調査票	11
表2 哺乳類の指定色一覧表	21
表3 年代区分表	23
表4 生息状況区分表	26

動物分布調査（哺乳類）要綱

1. 調査の目的

わが国に生息する哺乳類の生息状況を把握するため、わが国に生息する大型及び中型獣 8 種の分布について調査する。

2. 調査実施者

国が都道府県に委託して実施する。

3. 調査対象地域

全国 47 都道府県全域について調査する。

4. 調査実施期間

契約締結の日から昭和 54 年 3 月 31 日までとする。

5. 調査内容

(1) 調査対象とする哺乳類は次のとおりとする。

地 域	調 査 対 象 哺 乳 類
北 海 道	シカ、ヒグマ、キツネ、タヌキ
本州・四国・九州	ニホンザル、シカ、ツキノワグマ、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ
沖 縄	シカ、イノシシ

(2) 調査事項は次のとおりとする。

ア . 生息地域

イ . 生息状況

ウ . 分布の変動（絶滅地域及び出現（絶滅）年代）

6 . 調査方法

聞きとり調査により実施する。調査方法の詳細は、別紙 1 「聞きとり調査実施要領」による。

7 . 調査結果のとりまとめ

受託者は調査結果を下記の図にとりまとめる。

(1) 哺乳類分布図

哺乳類の分布は、別紙 2 「哺乳類分布図（以下「

分布図」という。)にならい、国土地理院発行の1/5万地形図に表示する。

(2) 哺乳類分布メッシュ図

哺乳類分布図をもとに、哺乳類の種ごとに別紙3「哺乳類分布メッシュ図」(以下「分布メッシュ図」という。)を作成する。

(3) 哺乳類出現(絶滅)年代図

当該動物がその地域からいつ頃いなくなったか、あるいはいつ頃から生息するようになったか、絶滅・出現の状況を別紙4「哺乳類出現(絶滅)年代図」(以下「年代図」という。)にならい、哺乳類の種ごとにメッシュ図を作成する。

8. 調査結果の報告

受託者は、調査結果をとりまとめ、報告書150部、聞きとり調査票綴及び分布図各1部をそれぞれ別紙5「報告書作成要領」、別紙6「聞きとり調査票綴作成要領」、別紙7「哺乳類分布帳作成要領」により作成し、昭和54年3月31日までに環境庁自然保護局長あて提出する。

<別紙 1 >

聞きとり調査実施要領

1. 通則

第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査（哺乳類）の聞きとり調査は、この実施要領に従って行う。

2. 調査の統括

聞きとり調査は、原則として受託者が直接調査員を指揮して行い、調査結果をとりまとめる。

調査の実施、結果のとりまとめにあたっては、適宜学識経験者の意見を聞くこととする。

3. 調査員

(1) 聞きとり調査にあたる調査員は、林業改良普及員等その土地の状況に詳しい者とし、原則として次の中から選定する。

ア. 林業改良普及員

イ. 鳥獣保護員

ウ. 都道府県林業事務所等職員

- エ． 市町村林務関係職員
- オ． 自然公園指導員等
- カ． 大学等における研究者
- キ． 小中高校生物担当教員

(2) 調査に実施にあたっては、調査員に対して調査の趣旨、調査の方法等につき講習を行う。

4. 聞きとり地点

聞きとり調査を行う地点は次により定める。

(1) 国土地理院発行の1/5万地形図を縦横それぞれ4等分してできる区画(以下「調査区画」という。)を設定する。調査区画には、それぞれ次のように番号(以下「調査区画番号」という。)を付す。

13	9	5	1
14	10	6	2
15	11	7	3
16	12	8	4

- (2) 1調査区画において原則として2地点を「聞きとり地点」として選定する。

当該調査区画内に人が定住していない場合、あるいは当該調査区画内全域の市街地化が著しく明らかに調査対象哺乳類の生息が認められないと判断される場合は、聞きとり調査を省略してさしつかえない。

5. 聞きとりの相手

聞きとり調査を行う相手（以下「回答者」という。）

はできるかぎり哺乳類の生息状況について詳しい者（たとえば、林業作業員、営林署担当区職員、狩猟者等）とする。最奥の集落に住む者から聞きとることが望ましい。

原則として、1聞きとり地点においては2名以上から聞きとることとする。

6. 聞きとり調査

- (1) 聞きとりにあたっては、動物識別用カラー図版を示しながら、表1「聞きとり調査票」にそって聞きとる。
- (2) 国土地理院発行の1/5万地形図を呈示して聞きとり、目視地点、捕獲地点、生息地域等聞きとりの結果を直

ちに当該地形図に哺乳類の種ごとに指定された色（以下「指定色」という。表2参照）の色鉛筆を用い図化する。

なお、生息地が地点で回答された場合（目視地点、捕獲地点等）には、その地点を×印で示し、生息地が地域で回答された場合（例えば、「この沢沿いにいる」「この山の南斜面に広くいる」等）には、その地域を線でかこむ。

- (3) 当該調査区画内の哺乳類の生息状況だけでなく、回答者が知っているすべての地域における哺乳類の生息状況について聞き出すよう努める。
- (4) 同一地域について「生息する」という回答と「生息しない」という回答があった場合には、当該地域は「生息する」として取扱う。

7. 聞きとり調査票の整理

- (1) 聞きとり調査票には、右肩に番号（以下「アンケート番号」という。）を打ち、聞きとり調査後は、番号順に整理して保管する。
- (2) アンケート番号は、「地図番号」、「調査区画番号」、

「回答者番号」を組みあわせて作る。

ア． 「地図番号」(別紙2「哺乳類分布図」に後述)

には、当該調査区画が属する地形図の地図番号を記入する。

イ． 「調査区画番号」には、当該調査区画の番号を記

入する。

ウ． 「回答者番号」には、調査区画ごとに、1からは

じまる通し番号を回答者に付し、当該回答者の番号を記入する。

表1 聞きとり調査票

表 紙

上とじ

アンケート番号		
地区番号	調査区番号	回答者番号

哺乳類の分布についての
アンケート

調査年月日	昭和	年	月	日
回答者	氏名 (男・女) 歳			
	住所 〒			
	都道府県	市郡	町村	字
	職業 1. 林業作業員 2. 農業者 3. 森林組合職員 4. 農協職員 5. 森林署職員 6. 市町村職員 7. その他()			
狩猟経験 甲・乙 (年)				

調査者	氏名 (男・女) 歳			
	職業等 1. 都道府県職員 2. 市町村職員 3. 林業改良普及員 4. 鳥獣保護員 5. 自然公園指導員等 6. 大学等の研究員 7. 小中高校職員 8. その他()			

○ ○ 泉

I. ニホンザルについて

1. 昭和45年以降、あなたの住んでいる所あるいは管轄区域周辺でニホンザルを見ましたか。

ア. 見た。
 イ. いるという話を聞いた
 ウ. 見たことがない。

以下の質問は、ア、と答えた者についてのみ実施する。(ただし、イと答えた者についても例えば管轄区職員等に正確な情報が得られる者については実施する。)

2. あなたは、ニホンザルをどこで見ましたか。(1/5万地形図に目視地点、捕獲地点、生息地域等を記入する。)

どこで見ましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	見た・聞いたの区別	群れがいましたか	何頭くらいいましたか	子連れがいましたか	いつごろからいますか。	備 考
(記入例)	見た 聞いた	い た い ない	2 群 の 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	餌づけしている。
1)	見た 聞いた	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	見た 聞いた	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	見た 聞いた	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	見た 聞いた	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
5)	見た 聞いた	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

3. 現在はいいないが、以前ニホンザルが生息していたところを知っていますか。

どこにいましたか (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	群れがいましたか	何頭くらいいましたか	子連れがいましたか	いつごろからいなくなりましたか。	いなくなった原因は何だと感じますか。
(記入例)	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・ 昭40代 ・不明	生息地の森林伐採
1)	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	い た い ない	群 獲 わ か り な い	い た い ない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

II. シカトついて

1. 昭和45年以降、あなたの庄んでいる所あるいは管轄区域周辺でシカを見ましたか。

ア、見た。
 イ、いるということを聞いた。
 ウ、見たことがない。

以下の質問は、ア、と答えた者についてのみ実施する。(ただし、イと答えた者についても、例えば管轄着目当区職員のように正確な情報が得られる者については実施する。

2. あなたは、シカをどこで見ましたか。(1/5万地形図に目視地点、捕獲地点、注意地域等記入する。)

どこで見ましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	見た・聞いたの回数	11ヶ月頃見かけますか	何頭くらいいますか	子連れがいますか	11ごろからいますか。	備 考
(記入例)	(見た) 聞いた	一年中(春夏秋冬)わかれ	20頭 かわ	11尾 11尾	(捕) 大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	冬になると〇〇へ移動する。オスは見かけない。
1)	見た 聞いた	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	見た 聞いた	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	見た 聞いた	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	見た 聞いた	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
5)	見た 聞いた	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

3. 現在は11尾11が、以前シカが生息していたところを知っていますか。

どこに11ましたか (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	11ヶ月頃見かけましたか	何頭くらいいましたか	子連れがいましたか	11ごろから11なく反りましたか。	11なくなった原因は何だと感じますか。
(記入例)	一年中(春夏秋冬)わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代(昭40代)・不明	乱獲
1)	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	一年中春夏秋冬わかれ	頭 かわ	11尾 11尾	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

Ⅲ. クマについて（ツキノワグマ、ヒグマ）

1. 昭和45年以降、あなたの庄んでいる所あるいは管轄区域周辺でクマを見ましたか。	ア. 見た。 イ. いるというのを聞いた ウ. 見たことがない。
---	--

以下の質問は、ア. と答えた者についてのみ実施する。（ただし、イと答えた者についても、例えは管轄林署担当区職員のように正確な情報が得られる者については実施する。

2. あなたは、クマをどこで見ましたか。（1/5万地形図に目視地点、捕獲地点、生息地域等を記入する）
--

どこで見ましたか (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	見た・聞いたの区別	いつ頃見かけますか。	何頭くらいいますか	子連れがいましたか。	いつごろからいますか。	備 考
(記入例)	見た 聞いた	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	1-2頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	秋口民家の近くまで出てくる。
1)	見た 聞いた	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	見た 聞いた	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	見た 聞いた	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	見た 聞いた	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
5)	見た 聞いた	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

3. 現在はいいませんが、以前クマが生息していたところを知っていますか。

どこにいましたか (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	いつ頃見かけましたか。	何頭くらいいましたか	子連れがいましたか。	いつごろいなくなりましたか。	いなくなった原因は何だと思えますか。
(記入例)	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	捕獲ありでとるようになった。
1)	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	一年中 春・夏・秋・冬 わからず	頭 わからず	11月 いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

IV イノシシについて

1. 昭和45年以降、あなたの住んでいる所あるいは管轄区域周辺でイノシシを見ましたか。

ア. 見た。
 イ. いるというのを聞いた
 ウ. 見たことがない

以下の質問は、ア. と答えた者についてのみ実施する。(ただし、イと答えた者についても、例えば営林署担当区職員のように正確な情報が得られる者については実施する。)

2. あなたは、イノシシをどこで見ましたか。(1/5万地形図下、目視地点、捕獲地点、生息地域等を含む)

どこで見ましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	見た・聞いたの区別	何頭くらいいましたか	子連れがいましたか	いつごろからいますか。	備考
(記入例)	見た 聞いた	20頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
1)	見た 聞いた	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
2)	見た 聞いた	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
3)	見た 聞いた	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
4)	見た 聞いた	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
5)	見た 聞いた	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	

3. 現在はいいないが、以前イノシシが生息していたところを知っていますか。

どこにいましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	何頭くらいいましたか	子連れがいましたか	いつごろからいなくなりましたか。	いなくなった原因は何だと感じますか。
(記入例)	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
1)	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
2)	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
3)	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
4)	頭 わかり	11匹 はい	明治・大正戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	

V. キツネについて

1. 昭和45年以降、あなたの住んでいる所あるいは管轄区域周辺で キツネを見ましたか。	ア、見た。 イ、いるというニートを聞いた ウ、見たことがない。
--	---------------------------------------

以下の質問は、ア、と答えた者についてのみ実施する。(ただし、イと答えた者についても、例えば警察署担当区職員のように正確な情報が得られる者については実施する。)

2. あなたは、キツネをどこで見ましたか。(1/5万地形図に目視地点、捕獲地点、生息地域等を入る)

どこで見ましたか (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	見た・ 聞いた の区別	何頭く らいい ますか	春夏に 子を 見かけ ましたか	いつごろからいます か。	備 考
(記入例)	見た 聞いた	10頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	道路や農家近くで見かける。 ○年頃からいえた。
1)	見た 聞いた	頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	見た 聞いた	頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	見た 聞いた	頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	見た 聞いた	頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
5)	見た 聞いた	頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

3. 現在はいないが、以前キツネが生息していたところを知っていますか。

どこにいましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	何頭く らいい ましたか	春夏に 子が 見かけ ましたか	いつごろからいなく なりましたか。	いなくなった原因は何だと思えます か。
(記入例)	頭 わかり	11頭 いい	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	生息地の市街地化
1)	頭 わかり	11頭 いい	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
2)	頭 わかり	11頭 いい	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
3)	頭 わかり	11頭 いい	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	
4)	頭 わかり	11頭 いい	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不明	

Ⅶ. タヌキについて

1. 昭和45年以降、あなたの住んでいる所あるいは管轄区域周辺で
 タヌキを見ましたか。

ア. 見た。
 イ. いるという話を聞いた
 ウ. 見たことがない。

以下の質問は、ア、と答えた者についてのみ実施する。ただし、イと答えた者についても、例えば管轄
 署担当区職員のように正確な情報が得られる者については実施する。

2. あなたは、タヌキをどこで見ましたか。(1/5万地形図に目視地点、捕獲地点、生息地域等を記入
 する。)

どこで見ましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	見た・ 聞いた の区別	何頭く らいい ますか	春・夏に 子を見か けますか	いつごろからいます か。	備 考
(記入例)	見た 聞いた	10頭 わかりない	見かけない 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	道路や農家近くでみかける ○年ごろからいた
1)	見た 聞いた	頭 わかりない	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
2)	見た 聞いた	頭 わかりない	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
3)	見た 聞いた	頭 わかりない	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
4)	見た 聞いた	頭 わかりない	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
5)	見た 聞いた	頭 わかりない	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	

3. 現在はいないが、以前タヌキが生息していたところを知っていますか。

どこにいりましたか。 (市町村名、集落名、沢・山の名前など)	何頭く らいい ましたか	春・夏に 子が いましたか	いつごろからいなく なりましたか。	いなくなった原因は何だと思います か。
(記入例)	頭 わかりない	いた いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	生息地の市街地化
1)	頭 わかりない	いた いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
2)	頭 わかりない	いた いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
3)	頭 わかりない	いた いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	
4)	頭 わかりない	いた いない	明治・大正・戦前・昭20代 昭30代・昭40代・不詳	

Ⅶ アナグマについて

1. 昭和45年以降、あなたの住んでいる所あるいは管轄区域周辺で
アナグマを見ましたか。

ア. 見た

イ. いると聞くことを聞いた

ウ. 見たことがない。

以下の質問は、ア. と答えた者についてのみ実施する。(ただし、イと答えた者についても、例えば管轄
署担当区職員のように正確な情報が得られる者については実施する。)

2. あなたは、アナグマをどこで見ましたか。(1/5の地形図に目視地点、捕獲地点、生息地域等を
記入する。)

どこで見ましたか (市町村名・集落名・沢・山の名前など)	見た・ 聞いた の区別	何頭く らいましたか	春・夏に 子を見か けますか	いつごろからいます か。	備 考
(記入例)	見た 聞いた	2頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
1)	見た 聞いた	2頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
2)	見た 聞いた	2頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
3)	見た 聞いた	2頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
4)	見た 聞いた	2頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
5)	見た 聞いた	2頭 わかり	見かける 見かけない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	

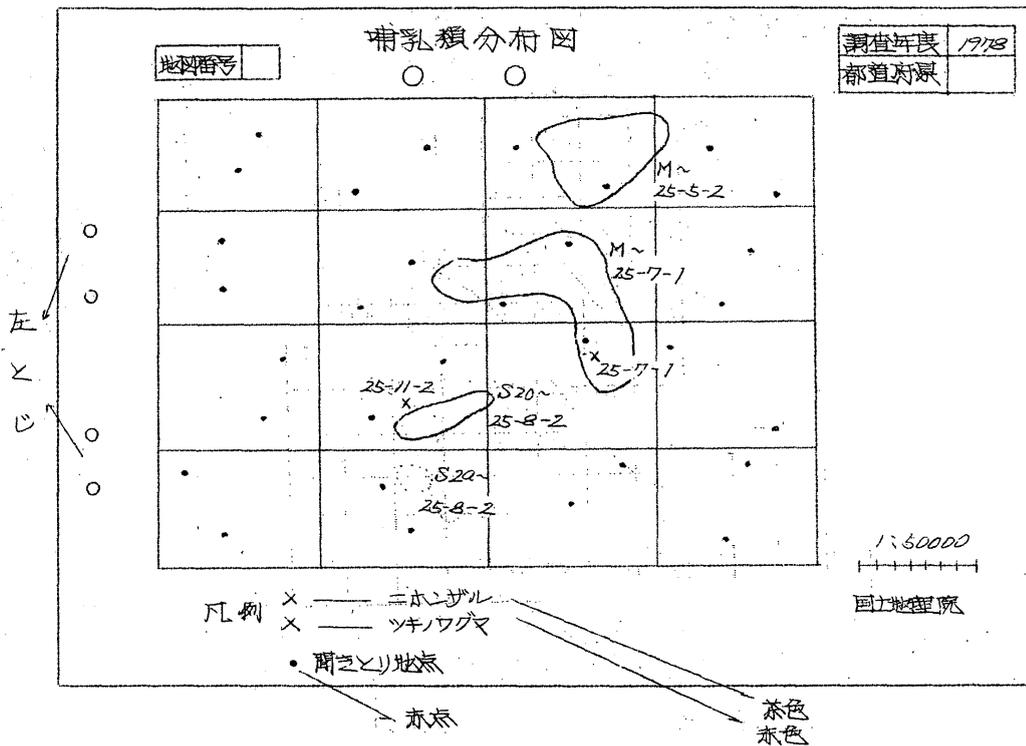
3. 現在は住んでいないが、以前アナグマが生息していたところを知っていますか。

どこにいましたか。 (市町村名・集落名・沢・山の名前など)	何頭く らいましたか	春・夏に 子がいま したか	いつごろからいなく なりましたか。	いなくなった原因は何だと感じます か。
(記入例)	2頭 わかり	11月 いない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	生息地の市街地化
1)	2頭 わかり	11月 いない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
2)	2頭 わかり	11月 いない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
3)	2頭 わかり	11月 いない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	
4)	2頭 わかり	11月 いない	明治・大正・戦前・昭和20代 昭和30代・昭和40代・不明	

<別紙 2 >

哺乳類分布図

(分布図例)

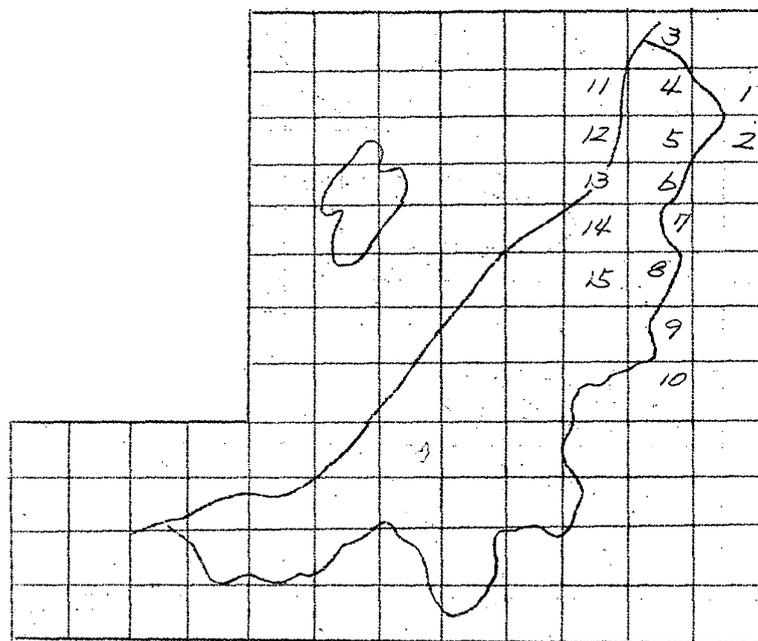


(分布図作成上の注意)

1. 分布図には、必ず国土地理院発行の1/5万地形図を使用する。複写図、編さん図等は使用しないこと。
2. 調査の結果、哺乳類の分布が表示されていない地形図が出てきた場合は、その地形図は提出しなくてよい。

3. 1/5万地形図には、都道府県単位で東側から、北から南へ「地図番号」を打つ。(下図(以下「地図番号図」という。)参照)

地図番号図(例:新潟県)



4. 分布図例のように地形図の余白の所定の位置に「タイトル」「地図番号」「調査年度」(西暦)「都道府県名」を黒インクで記入する。
- また、分布図の凡例をそれぞれの地形図の下の余白に記入する。
5. 分布図には分布図を縦横それぞれ4等分する線を引く。

6 . 分布図には聞きとり調査を実施した地点に径 2 mm
程度の赤・印を付す。

7 . 動物の目視地点、捕獲地点には×印を付し、動物の
生息地域は実線で囲む。

×印及び生息地域を示す線はそれぞれ次に示す指定
色に従って色わけする。

表 2 哺乳類の指定色一覧表

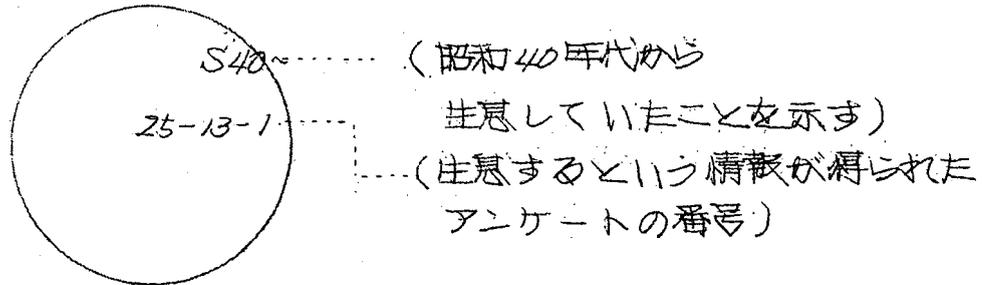
調査対象哺乳類	指 定 色
ニホンザル	茶 色 (三菱ポリカラー No7500 21)
シカ	紫 色 (" " 12)
ツキノワグマ、ヒグマ	赤 色 (" " 15)
イノシシ	やまぶき色 (" " 3)
キツネ	も も 色 (" " 13)
タヌキ	青 色 (" " 33)
アナグマ	黒 色 (" " 24)

8 . 目視地点、捕獲地点、生息地域には、その脇にその
情報が得られた聞きとり調査票のアンケート番号を記
入する。

また、生息地域の場合には、その脇にその地域に当

該動物がいつ頃から生息しはじめたのか、その年代を表3「年代区分表」のように区分し、略号で表示する。

(例)

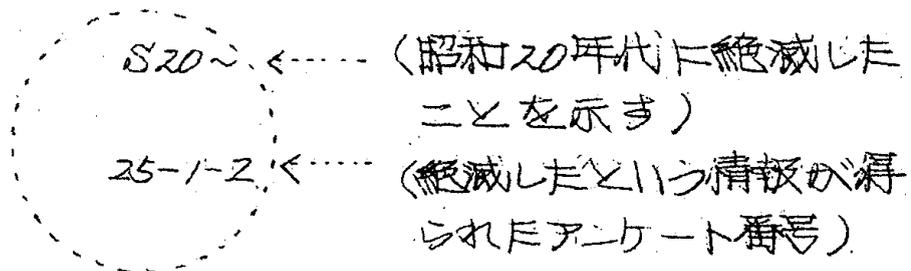


なお、一時絶滅して再び出現した場合の表示は、絶滅年代を先に、再出現年代を()に入れて続ける。

(例) 大正時代に絶滅し、昭和30年代から再び生息するようになった場合の表示はT(S30)となる。

9. 昔生息していたが現在いない場合は、その生息地点で囲んで示す。

(例)



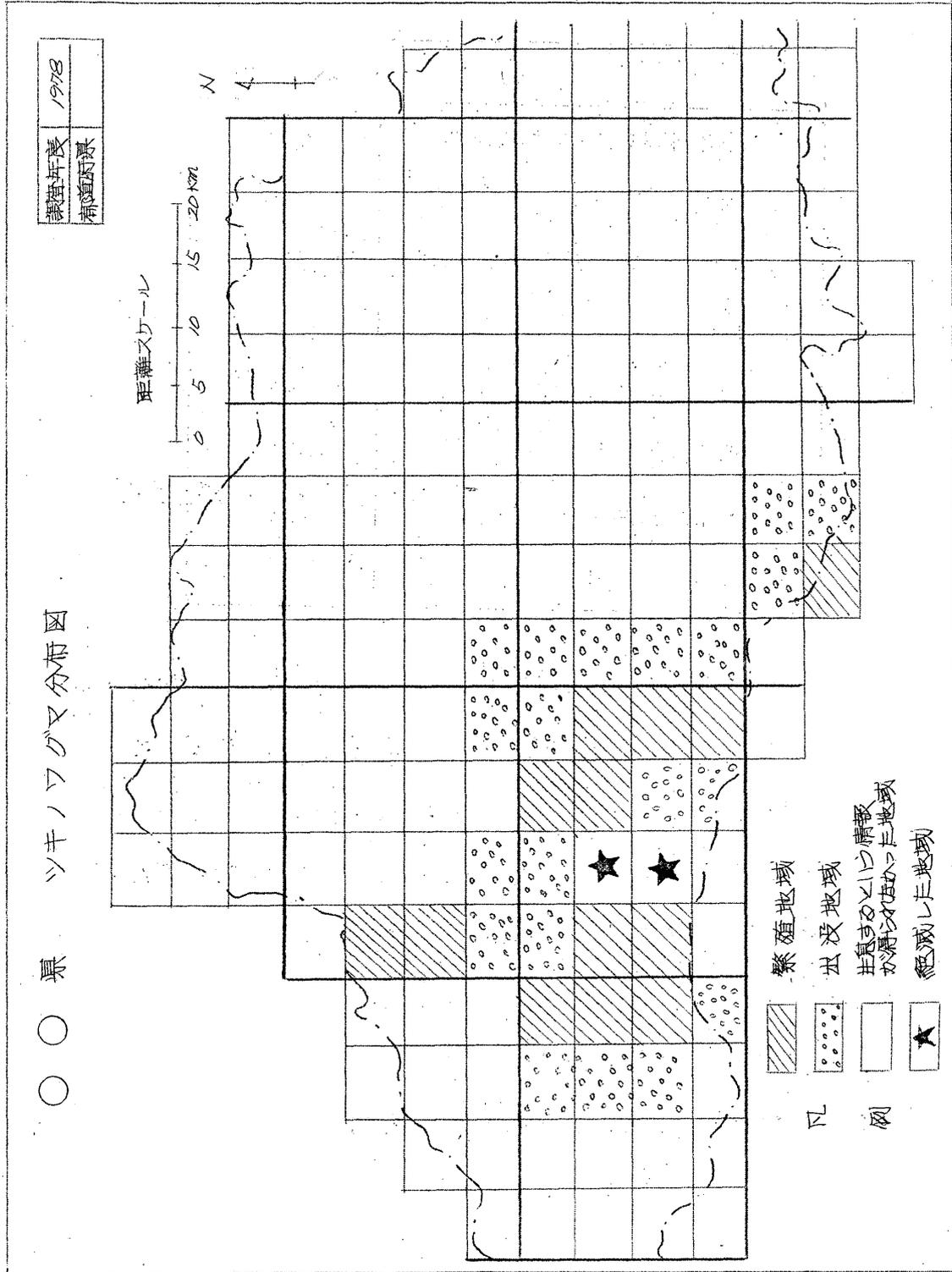
10. 生息地域が2枚以上の地形図にわたる場合は、関係する地形図ごとに生息しはじめた年代とアンケート番号を記入すること。

表3 年代区分表

区 分	略 号
1) 明治時代及びそれ以前	M ~
2) 大正時代	T ~
3) 戦 前 (昭和1年 ~ 19年)	BW ~
4) 昭和20年代	S20 ~
5) 昭和30年代	S30 ~
6) 昭和40年代	S40 ~
7) 昭和50年代	S50 ~
8) 不 明	?

<別紙3> 哺乳類分布メッシュ図

(分布メッシュ図例)



(分布メッシュ図作成上の注意)

- 1 . 国土地理院発行の1/50万地方図に、調査区画(メッシュ)を記入する。この1/50万地方図に、トレーシングペーパーを載せ、県境とメッシュを写しとる。その際、国土地理院発行の1/5万地形図の図幅に対応する線は太くする。
2以後の作業は、県境及びメッシュを写しとったトレーシングペーパーを用いて行う。
- 2 . 分布メッシュ図は、都道府県別に哺乳類の種ごとに作成する。
- 3 . 分布メッシュ図例のように、余白に、「タイトル」「調査年度」、「都道府県名」、「方位」、「距離スケール」(5Kmきざみ程度の目盛を入れた図上で20~30Kmを示すスケール)を記入する。
- 4 . 調査結果(調査票、分布図)をもとに、表4「生息状況区分表」に従って、調査区画ごとの当該種の生息状況を判断し、同表の表示方法欄に示されたスクリーントーンを当該調査区画に貼付する。
- 5 . 分布メッシュ図例のように、余白に生息状況区分について凡例を記入する。

表 4 生息状況区分表

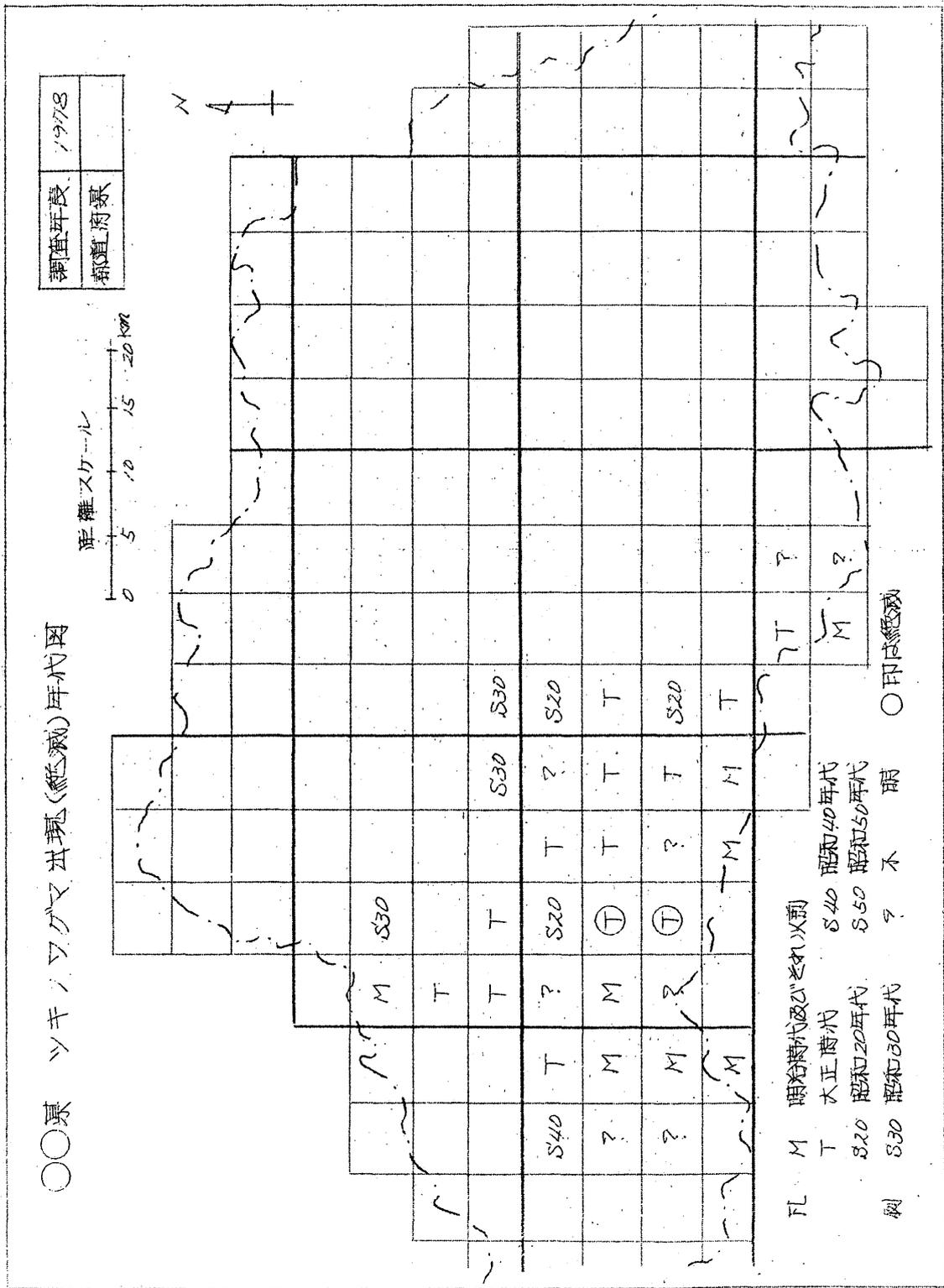
動物種	生息状況区分	表示方法 (スクリーン 番号)	備考
ニホンザル	群れの生息する地域	No. 240	子供が確認されている地域の場合は、「群れの生息する地域」と判断する。
	生息するが群れとは判断できない地域	No. 124	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地 まま	
	絶滅した地域		
シカ	1年中、生息している地域	No. 240	
	季節によっては生息している地域	No. 124	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地のまま	
	絶滅した地域		
ツキノワグマ	繁殖地域	No. 240	繁殖地域とは越冬し、子供を産む地域、1年中クマが生息していると考えられる地域をいう。 出没地域とは1年中クマが生息しているとは考えられず、ある季節になるととくにエサを求めて歩き回る地域をいう。
	出没地域	No. 124	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地のまま	
	絶滅した地域		
イノシシ	生息するという情報の得られた地域	No. 240	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地のまま	
	絶滅した地域		
キツネ	生息するという情報の得られた地域	No. 240	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地のまま	
	絶滅した地域		
タヌキ	生息するという情報の得られた地域	No. 240	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地のまま	
	絶滅した地域		
アナグマ	生息するという情報の得られた地域	No. 240	
	生息するという情報の得られなかった地域	白地のまま	
	絶滅した地域		

(注) シンボルマーク () Instant Lettering Symbols 商品番号

566 の中の 5 mm の大きさを用いる。

<別紙4> 哺乳類出現(絶滅)年代図

(年代図例)



(年代図作成上の注意)

- 1 . 年代図は、分布メッシュ図と同様に、1/50万地方図から県境、調査区画を写しとったトレーシングペーパーを用いて作成する。
- 2 . 年代図は、都道府県別に、哺乳類の種ごとに作成する。
- 3 . 年代図例のように、余白に「タイトル」、「調査年度」、「都道府県名」、「方位」、「距離スケール」を記入する。
- 4 . 調査区画ごとの当該種の出現（絶滅）年代を調査結果から、各調査区画に記入する。
- 5 . 出現（絶滅）年代の年代区分の表示方法は、表3「年代区分表」によって行い、その略号をメッシュに記入する。
- 6 . 絶滅年代は、略号を で囲んで示す。
- 7 . 年代図例のように、余白に、年代区分の表示方法を凡例として記入する。

<別紙5> 報告書作成要領

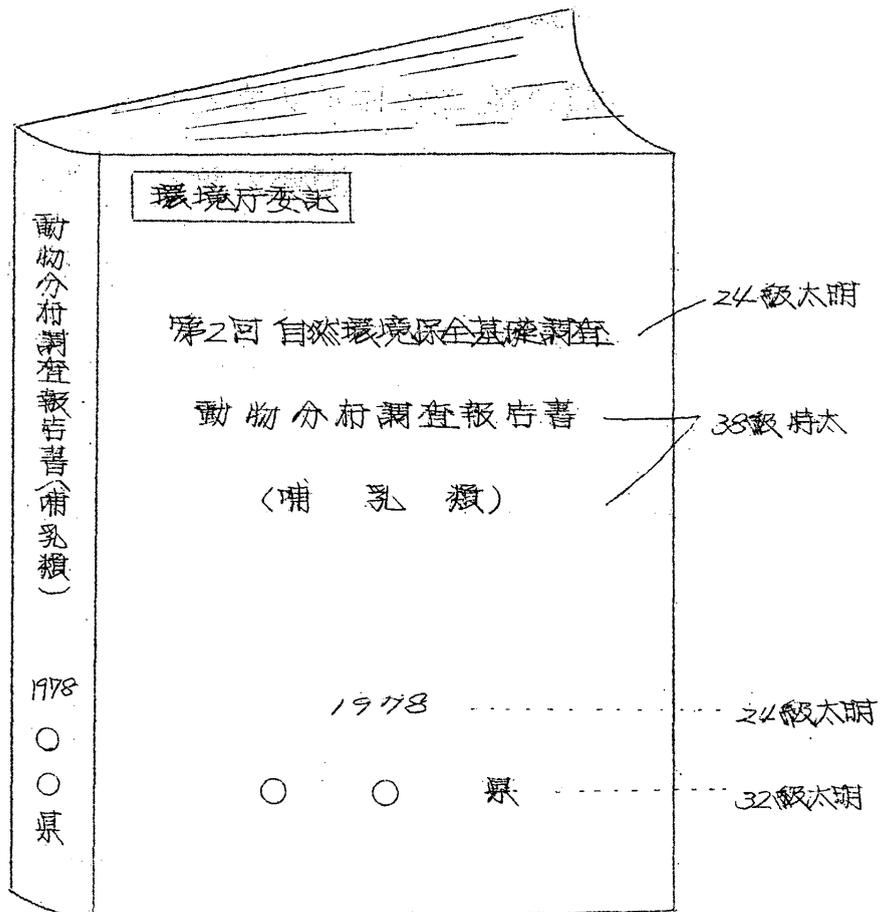
1. 規格

B5版、左とじ、横書きとする。

印刷は、タイプ印刷程度とする。

2. 表紙及び背文字

表紙（及び裏表紙）は橙色、厚さは215kg（レザック66Y程度）とし、様式は下図によるものとする。



3. 配 列

報告書における各項目の配列は以下のとおりとする

- (1) 目 次
- (2) 県内の哺乳類の概要
- (3) 調査方法の概要
- (4) 哺乳類分布メッシュ図
- (5) 哺乳類出現（絶滅）年代図
- (6) 調査担当者名簿

4. 県内の哺乳類の概要

県内の哺乳類の分布の状況、生息状況についてその概要を哺乳類の種ごとにとりまとめる。

なお、当調査において調査対象外となっている哺乳類の生息状況等についても知見のある限り記載されることが望ましい。

5. 調査方法の概要

当調査の方法について、別紙1「聞きとり調査実施要領」を例に、その概要を記載する。

6. 哺乳類分布メッシュ図

調査区画の1区画の大きさ及び分布メッシュ図の凡例について解説したのち、作成された分布メッシュ図

を、それぞれの種ごとに B5 版もしくは B4 版に収まる程度の大きさに縮小印刷する。

7. 哺乳類出現（絶滅）年代図

調査区画の 1 区画の大きさ及び年代図の凡例について解説したのち、作成された年代図をそれぞれの種ごとに B5 版もしくは B4 版に収まる程度の大きさに縮小印刷する。

8. 調査担当者名簿

当調査に実際に従事した者全員の所属・氏名・分担分野を次の表にとりまとめる。

番号	氏名	所属	分担分野
1			
2			
3			
4			
5			
6			

9. 奥付け

奥付けの様式は下図によるものとする。

第2回 自然環境保全基礎調査
動物分布調査報告書
(哺乳類)
昭和54年3月31日
編集
〇〇県

環境庁委託調査

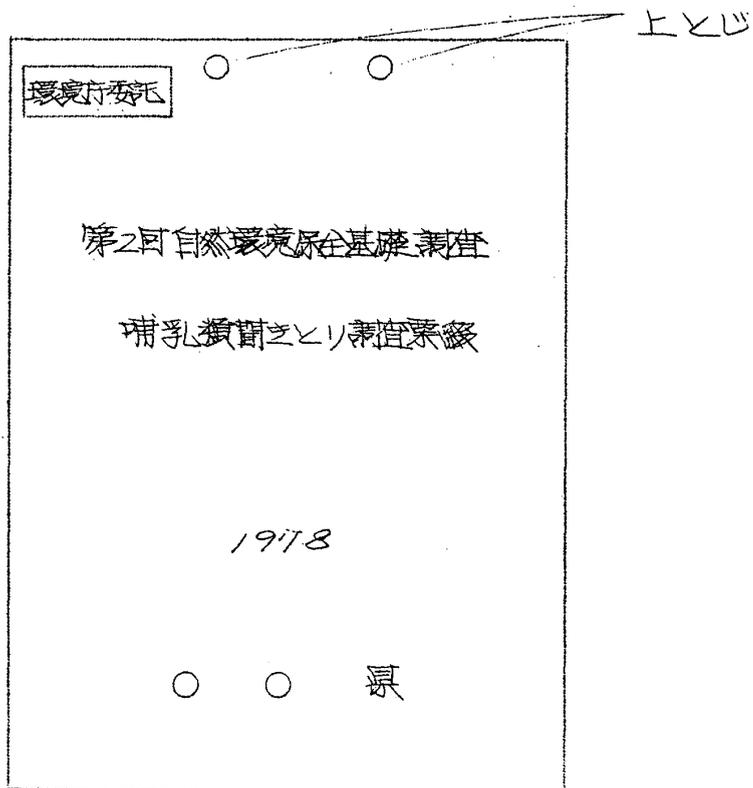
<別紙 6 >

聞きとり調査票綴作成要領

1. 表紙

表紙（及び裏表紙）は、B4版の大きさとし、色、厚さは報告書に準ずる。

様式は、下図によるものとする。



2. 配列

配列は以下の順とする

ア. 表紙

イ． 聞きとり調査票（アンケート番号の順にならべる）

ウ． 裏 表 紙

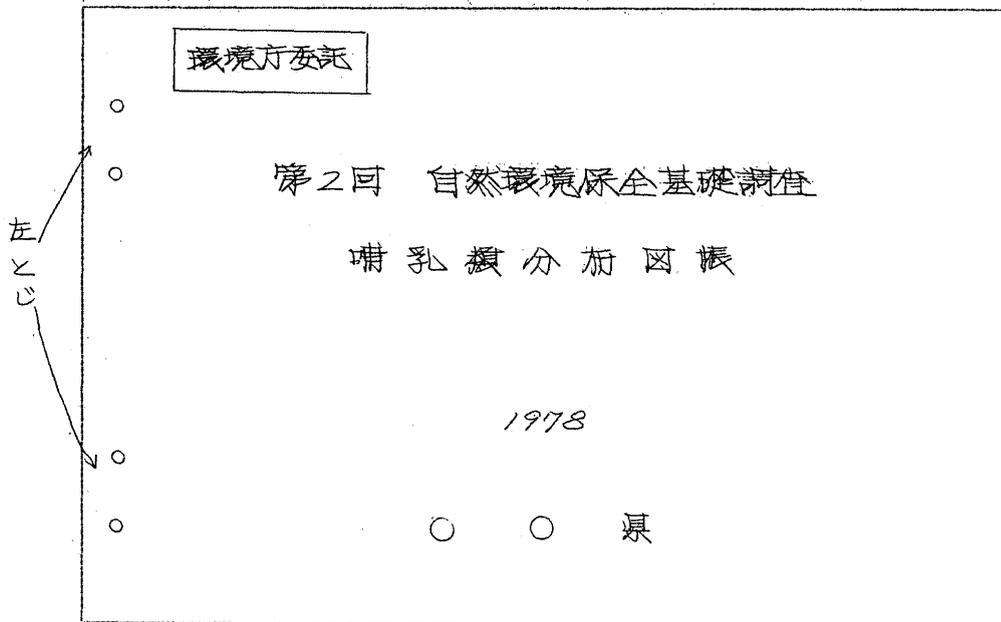
<別紙 7 >

哺乳類分布図帳作成要領

1. 表紙及び裏表紙

表紙は、国土地理院発行の1/5万地形図の大きさとし、
表紙の色、厚さは報告書に準ずる。様式は、下図による
ものとする。

裏表紙は、厚手のボール紙を使用する



2. 配列

(1) 表紙

(2) 地図番号図(提出されない図幅には例のように×印)

